社会心理学への招待
：対人魅力に着目して

菅　沼　　崇

社会心理学とは、端的に言えば、「人と人との関わり合いについての心理学」です。本稿では、私が担当している授業「社会心理学」において取り扱っているテーマのうち、学生からの人気が最も高い「対人魅力」について紹介したいと思います。

私たちは、生活を営む上で様々な人と知り合います。しかし、知り合ったすべての人と人間関係を築くわけではありません。例えば、同じように知り合った同級生でも、仲良くなる相手とそうでない相手が生じてくることは多くの人が経験しているでしょう。友人関係、恋愛関係、夫婦関係などでは、通常、お互いに魅力をもった者同士が関係を構築しています。このように、特定の他者に対して魅力や好意をもつことを**対人魅力**といいます。では、人はどのような状況で、またどのような相手に魅力をもちやすいのでしょうか。人間関係を成立させる対人魅力要因について見ていきましょう。

①近接性

小学校や中学校に入学したとき、最初に仲良くなった人はどのような人だったでしょうか。たぶん、席が近い人だったと思われます。一般的に、物理的な距離が遠い人より近くにいる人の方が親しくなりやすいのです。これは、単純接触効果が働くためだと考えられています。単純接触効果とは、単に接触する回数が多ければ、それだけ好感をもつという心理的効果のことです。フェスティンガー等（Festinger et al., 1950）は、アパートの住人が同じ階のすぐ隣の人と最も親しくなりやすいことを見出しています。近くにいると、相手と顔を見合わせることが多くなり、それだけ相手を見慣れることになります。それが親しみを感じさせるのです。ただし、このような効果は、会ってみて少なくとも不快でない相手の場合にしか生じないことが分かってい

ます。近接性の要因は、人間関係が形成される初期段階で重要です。

②身体的魅力

ハンサム、美人、スタイルがいい人など、優れた外見をもつ人は他者から魅力をもたれやすいといえます。ウォルスター等（Walster et al., 1966）は、ダンスパーティーという名目で互いに面識のない男女を集めて身体的魅力の効果についての実験を行っています。その結果、男女共に美しい人ほど好意をもたれやすく、後のデートを希望されやすいことが明らかになりました。その理由として、ウォルスター等は、1）身体的魅力の高い人は他にもよい特性をもっているだろうという固定観念が働く；2）身体的魅力の高い人と一緒にいることで、自分も周りの人から好意的に評価されるだろうと思う；3）身体的魅力の高い人といることが耽美的な満足をもたらす、など3点を挙げています。このような傾向は、異性間だけでなく同性間においても確認されています。ただし、この身体的魅力の要因も近接性の場合と同様、人間関係が形成される初期段階で重要です。

③個人の内的状況

特定の他者と遭遇したときに自分がどのような心理状態であったのか、ということも相手に対する好意の度合いを左右する要因となります。ウォルスター（Walster, 1965）は女子学生を被験者とした実験でこのことを実証しました。彼女は性格検査という名目で女子学生を実験に参加させ、半分の学生には「あなたの性格は望ましくなかった」と告げ、もう半分の学生には「あなたの性格は望ましかった」と告げました（実験は一人ずつ行われています）。その後、実験助手としてそばにいた仕掛人の男子学生にこっそりと彼女らをデートに誘わせました。実験終了後に、その助手に対する印象を評定させたところ、前者の女子学生達は後者の女子学生達に比べて、その助手を好意的に評価していました。この結果は、自信を失っているときに好意を寄せてくれた相手に対して、強い魅力を感じることを示しています。相手が悩んだり落ち込んだりして情緒が不安定なときに、接近してやさしくするのは効果的なようです。

④人格的特性

「あの人は性格がよい」あるいは「性格が悪い」といった言葉をよく聞きます。確かに他者の人格的特性も魅力を決定する要因で、人は「性格がよい」と感じる相手と人間関係を築きたいと思うようです。従来の研究結果をまとめると、「誠実な人」、「正

直な人」、「思いやりのある人」などは好意的に評価されやすく、逆に「うそつきな人」、「ずるい人」、「他者をさげすむ人」などは、嫌悪的に評価されやすいようです（齋藤, 1985）。

⑤類似性

すでに述べたように、「相手が近くにいる」あるいは「身体的魅力が高い」などは、人間関係が形成される初期のきっかけに過ぎません。その関係が長く続くためには、「お互いが似ている」ことが必要なようです。ニューカム（Newcomb, 1961）は関係が親密になっていく過程を追跡調査した結果、相互の基本的なものの見方や考え方が類似していること（態度や価値観の類似性）が長期的な人間関係において特に重要な要因であることを見出しました。あなたも経験があるでしょう。新たな集団に入って知り合いが多くできたとしても、友人として残るのは、やはり自分と態度や価値観の似た一部の人たちではないでしょうか。その人達には好意をもち、魅力を感じていたはずです。その理由として、バーンとネルソン（Byrne & Nelson, 1965）は、相手と自分の態度や価値観の類似性が高ければ、1）自分の考えの正しさが確認できるため安心感が得られる、2）相手の理解が容易であるため衝突することが少ない、3）相手を自分と一体的に感じやすくなり自己愛的なものが生まれる、など３点を挙げています。

⑥相補性

自分がもってない部分をもっている人に魅力を感じることがあります。ウィンチ（Winch, 1958）は、特に配偶者選択においては、お互いにもってない部分を補い合える関係であるか否かが重要な要因であるとしました。ただし、相補性とは役割の相補性に限定されます（例えば、自分は外で働くことが好きだが、相手は家で家事をするのが好きだ、など）。夫婦関係など長期的関係には役割の相補性が重要であるとされますが、それだけでは不十分であるともいわれています。やはり、態度や価値観は基本的に類似している必要があるようです。その両方が揃わなければ長期的な関係は望めないのでしょう。

このほかにも、社会心理学にはまだまだ魅力的なテーマがたくさんあります。ぜひ受講してみてください。

【引用文献】

Byrne, D. & Nelson, D. 1965 Attraction as a linear function of propotion of positive reinforcements. *Journal of Personality and Social Psychology*, 1, 659–663.

Dutton, D.G. & Aron, A.P. 1974 Some evidence for heightened sexual attraction under conditions of high anxiety. *Journal of Personality and Social Psychology*, 30, 510–517.

Festinger, L., Schachter, S. & Back, K. 1950 *Social pressures in informal groups: A study of human factors in housing*. New York: Harper & Row.

Newcomb, T.M. 1961 *The acquaintance process*. New York: Holt,

齋藤 勇 1985 好きと嫌いの人間関係 エイデル研究所

Walster, E. 1965 The effect of self-esteem on romantic liking. *Journal of Experimental Social Psychology*, 1, 184–197.

Walster, E., Aronson, V., Abrahams, D. & Rottmann, L. 1966 Importance of physical attractiveness in dating behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 4, 508–516.

White, G.L., Fishbein, S. & Rustein, J. 1981 Passionate love and the misattribution of arousal. *Journal of Personality and Social Psychology*, 41, 56–62.

Winch, R.F. 1958 *Mate-selection: A study of complementary needs*. New York: Harper & Row.